

「リーダーの一流、二流、三流」という本からです

三流は、できる部下の仕事を増やし、二流は、平等に配分し、一流は、一部の仕事をやめられないか検討する

リーダーの A さんには、営業事務を担当している H さんという非常に仕事ができる部下がいました。H さんは、他の人の 3 倍の仕事をこなしていました。リーダーも H さんが夜遅くまで残って仕事をしているので、少し心配はしていました。しかし、H さんは面談で、「将来、マーケティング部に行きたいから、できるだけ資料作成の仕事をたくさんやりたいです」と頼もしいことを言っていたので、安心していました。できる部下に仕事が多くなるのは仕方ないと、リーダー A さんは思っていたのです。しかし、ある日突然、H さんが辞表を提出してきたのです。理由は、自分ばかり仕事が多いのに給料が変わらない、という待遇に不満を持ったからだそうです。実は、このような出来事は少なくありません。やはり仕事の配分は、平等にしないと いけません。

しかし、現実には、できる人に仕事が多く配分されてしまいます。何よりも営業などの部署では、お客様を開拓し、お客様の数が増えれば増えるほど、仕事は多くなっていきます。事務処理などの仕事も増え続けているケースが少なくありません。人員を増やせればいいのですが、なかなかそうもいかないのが実情です。そんなとき一流のリーダーは、一部の仕事をやめることを検討するのです。仕事の中には、やらなくていいものもたくさんあるはずで。例を挙げてみます。

- ・記入項目ばかり多い割には、まったく機能していない日報
- ・定期的に作成してはいるものの、ほとんど誰も見ていないデータ
- ・誰も見ていない毎週つくる商品別売り上げデータ

その他にも、急ぎの依頼と言う割には、急ぐ必要のないものもあるでしょう。次のように仕事を減らすことを考え、もっと楽で効果のある仕組みをつくる、これこそリーダーの大切な仕事です。

- ・この仕事をなくした場合の不利益は何か？
- ・既存の何かでカバーできないか？
- ・頻度をもう少し減らすことができないか？
- ・アウトソーシングできないか？

誰かに仕事が集中してキャパオーバーになっていたら、何かムダな仕事をしていないか、何か代用できないか考えてみることです。また、ひとつ仕事が増えたらひとつ減らす「一増一減主義」をとるといいでしょう。モノと同じですね。

ひとつ仕事が増えたらひとつ減らすことを何主義と言っていますか？

() 主義